

Huaweiの知財戦略: 16.5万件超の特許保有とライセンスプログラム展開の記録

エグゼクティブサマリ

事業概要: Huawei Investment & Holding Co., Ltd.の2025 Annual Reportは、2025年の事業セグメントをICT Infrastructure、Consumer、Cloud Computing、Digital Power、Intelligent Automotive Solution、Otherに区分して売上高を開示している。2025年の売上高はICT Infrastructureが375,014百万人民元、Consumerが344,473百万人民元、Cloud Computingが32,161百万人民元、Digital Powerが77,312百万人民元、Intelligent Automotive Solutionが45,018百万人民元、Otherが6,963百万人民元である。地域別では中国が616,249百万人民元、EMEAが161,356百万人民元、Asia Pacificが50,113百万人民元、Americasが37,184百万人民元、Otherが16,039百万人民元である。Huawei公式の知的財産ページでは、同社がICT分野の主要な特許保有者とのライセンス交渉を継続し、欧州、米国、日本、韓国のグローバルICT企業との間で260件を超える特許ライセンス契約を締結していると記載されている。[1][3]

財務: 2025 Annual Reportに記載された2025年実績では、売上高は880,941百万人民元であり、2024年の862,072百万人民元から2.2%増加した。営業利益は96,937百万人民元、営業利益率は11.0%、純利益は68,036百万人民元であり、2024年の62,574百万人民元から8.7%増加した。営業活動によるキャッシュフローは127,384百万人民元で、2024年の88,417百万人民元から44.1%増加した。2025年末時点の総資産は1,334,930百万人民元、総借入金は239,284百万人民元、資本は600,120百万人民元、負債比率は55.0%である。同資料は、これらの財務数値がIFRS Accounting Standardsに基づく連結財務諸表から作成されていると説明している。[1][2]

技術・知財: 2025 Annual ReportおよびHuawei公式IPRページは、2025年末時点でHuaweiが世界で165,000件を超える有効な登録特許を保有していると記載している。Huawei公式IPRページは、このうち中国で55,000件超、米国で30,000件超、欧州で約20,000件の登録特許を保有していると記載している。WIPOのPCT Yearly Review 2025では、2024年のPCT国際出願においてHuawei Technologies Co., Ltd.が6,600件で出願人別第1位である。WIPOの2026年発表では、2025年のPCT国際出願でHuaweiが7,523件を記録し、第1位を維持した。EPO Patent Index 2024では、HuaweiはEPOへの出願件数4,322件で出願人別第2位であり、EPO Technology Dashboard 2025でも第2位である。[1][3][8][9][10][11]

戦略・成長: Huawei公式資料は、同社が4Gおよび5Gハンドセット、Wi-Fi 6、Cellular IoTの特許ライセンスプログラムを公開していると記載している。2023年7月の公式発表では、4Gハンドセットのロイヤリティ上限は1台あたり1.5米ドル、5Gハンドセットは1台あたり2.5米ドル、Wi-Fi 6消費者向けデバイスは1台あたり0.5米ドル、IoT-Centricデバイスは純販売価格の1%で上限0.75米ドル、IoT-Enhancedデバイスは1台あたり0.3~1米ドルとされている。2022年以降、HuaweiはOPPO、Nokia、Ericsson、Xiaomi、Sharp、Amazon、vivo、EDMIとの特許ライセンスまたはクロスライセンス契約を公式に発表している。また、HEVC AdvanceおよびSisvel Wi-Fi 6 Patent Poolへの参加も公式に発表している。[15][16][17][18][19][20][21][22][23][24][25][26][27][28][29][30][31]

リスク・ESG: 2025 Annual Reportは、2025年末時点で114,000人の従業員がR&Dに従事し、これは全従業員の約53.7%に相当すると記載している。同資料は、2025年のR&D支出が192.3十億人

民元で売上高の21.8%に相当し、過去10年間のR&D投資累計が1.382兆人民元を超えると記載している。従業員関連では、2025年に従業員の福利厚生に20.99十億人民元を投資し、166の国および地域から従業員を受け入れていることが記載されている。HUAWEI Consumer Business Sustainability Progress Report 2024–2025は、Dongguan, Xi'an, HelsinkiのHealth Labの機能を説明している。Huawei公式IPRページは、2025年にコネクティビティ、コンピューティング、スマートデバイス、IAS、その他の領域で7,000件以上の標準化コントリビューションを提出したと記載している。[1][3][7]

財務実績および事業セグメント別の売上動向

Huawei Investment & Holding Co., Ltd.が公表した公式の「2025 Annual Report」に記載されている実績データに基づき、Huaweiの財務状況および事業セグメント別の売上高の動向を記録する。同報告書によると、2025年実績における売上高(Revenue)は880,941百万人民元である。この数値は、2024年実績である862,072百万人民元と比較して2.2%の増加である。[1]

同資料に基づく2025年実績の営業利益(Operating profit)は96,937百万人民元であり、営業利益率(Operating margin)は11.0%である。2025年実績の純利益(Net profit)は68,036百万人民元であり、2024年実績の62,574百万人民元と比較して8.7%の増加である。営業活動によるキャッシュフロー(Cash flow from operating activities)の2025年実績は127,384百万人民元であり、2024年実績である88,417百万人民元から44.1%増加している。[1][2]

事業セグメント別の財務実績について、2025 Annual Reportは各事業の2025年実績の売上高および2024年実績からの増減率を開示している。同資料によると、ICT Infrastructure事業の2025年売上高は375,014百万人民元であり、2024年実績の365,424百万人民元から2.6%増加した。Consumer事業の2025年売上高は344,473百万人民元であり、2024年実績の339,006百万人民元から1.6%増加した。Cloud Computing事業の2025年売上高は32,161百万人民元であり、2024年実績の33,325百万人民元から3.5%減少した。なお、同資料の注記には、他のHuaweiセグメントからの収益を含むクラウドコンピューティング事業由来の2025年収益総額が72,075百万人民元であると記載されている。[1]

Digital Power事業の2025年売上高は77,312百万人民元であり、2024年実績の68,607百万人民元から12.7%増加した。Intelligent Automotive Solution事業の2025年売上高は45,018百万人民元であり、2024年実績の26,158百万人民元と比較して72.1%増加した。Other事業の2025年売上高は6,963百万人民元であり、2024年実績の29,552百万人民元から76.4%減少した。[1]

地域別売上高について、2025 Annual Reportによれば、中国地域の2025年売上高は616,249百万人民元であり、2024年実績の615,264百万人民元から0.2%増加した。EMEA地域の2025年売上高は161,356百万人民元であり、8.8%増加した。Asia Pacific地域の2025年売上高は50,113百万人民元であり、15.7%増加した。Americas地域の2025年売上高は37,184百万人民元であり、2.4%増加した。Other地域の2025年売上高は16,039百万人民元であり、14.9%減少した。[1]

貸借対照表の主要項目について、2025 Annual Reportによると、2025年12月31日時点の総資産は1,334,930百万人民元であり、2024年12月31日時点の1,290,149百万人民元と比較して3.5%増加した。資本(Equity)は600,120百万人民元であり、2024年の544,619百万人民元から10.2%増加した。総借入金(Total borrowings)は239,284百万人民元であり、2024年の264,871百万人民元から25,587百万人民元減少した。[1][2]

研究開発投資とインフラストラクチャの展開状況

Huaweiの研究開発投資について、2025 Annual Reportは、2025年のR&D支出が192.3十億人民元であり、売上高の21.8%に相当すると記載している。同報告書には、Huaweiが毎年売上高の10%以上を研究開発に投資していること、過去10年間のR&D投資の累計実績が1.382兆人民元を超えていることが記載されている。[1]

研究開発体制の人的規模について、2025 Annual Reportは、2025年12月31日時点でR&D部門に従事する従業員数が114,000人であり、全従業員数の約53.7%に相当すると報告している。同資料は、2025年にHuaweiが従業員の福利厚生に20.99十億人民元を投資したこと、166の国および地域から従業員を受け入れていることを記載している。また、Huawei ICT Academyは110を超える国および地域を対象範囲とし、180万人を超える学生に対してトレーニングを完了したと記載されている。[1]

標準化組織等に対する技術貢献について、Huawei公式IPRページは、2025年にコネクティビティ、コンピューティング、スマートデバイス、IAS、その他の事業領域で7,000件以上の標準化コントリビューションを提出したと記載している。2025年11月11日に公表された「Advancing Innovation with Openness」では、2024年に標準化組織に対して10,000件以上の技術コントリビューションを提出し、1,000編以上の学術論文を発表したと記載されている。[3][5]

研究開発インフラストラクチャの物理的拠点について、Huawei Lianqiu Lake R&D Centerは、中国・上海市青浦区金沢鎮に位置する研究開発拠点として公式イベント資料に記載されている。同拠点は2025年9月に開催されたサミットおよびテクノロジーフォーラムの公式イベント会場として記録されている。[6]

フィットネスおよび健康領域の研究開発拠点について、HUAWEI Consumer Business Sustainability Progress Report 2024–2025は、HUAWEI Health Labが中国のDongguan、Xi'an、およびフィンランドのHelsinkiに設置されていると記載している。Dongguanのラボはフィットネスおよび健康製品の研究、標準化、テスト、認証、産業インキュベーションのためのプラットフォームを構築する機能を担う。Xi'anのラボはフィットネスおよび健康ソリューションのテスト、データ収集、検証を担う。Helsinkiのラボは関連するアルゴリズムや技術の開発に注力している。[7]

知的財産ポートフォリオと公的データベースに基づく特許統計

2025 Annual ReportおよびHuawei公式IPRページによると、2025年末時点でHuaweiは世界で165,000件を超える有効な登録特許 (active granted patents) を保有している。Huawei公式IPRページは、このうち中国で55,000件超、米国で30,000件超、欧州で約20,000件の登録特許を保有していると記載している。[1][3]

2025年11月11日に公表された「Advancing Innovation with Openness」では、2024年に37,000件の特許を公開したと記載されている。また、Huawei公式IPRページは、同社のグローバルR&D投資額がEU Industrial R&D Investment Scoreboardにおいて9年連続で上位6位以内に入ったと記載している。[3][5]

世界知的所有権機関(WIPO)が公開する「PCT Yearly Review 2025」によると、2024年実績のPCT国際出願公開件数において、HUAWEI TECHNOLOGIES CO., LTD.は6,600件を記録し、出願人

別ランキング第1位である。この6,600件は、2023年実績の6,494件から1.6%増加している。WIPOの2026年発表によると、2025年実績のPCT国際出願公開件数でHuaweiは7,523件を記録し、出願人別ランキングで第1位を維持した。[8][9]

WIPOのPCT Yearly Review 2025における技術分野別の分析では、Huaweiの主な出願分野はデジタル通信(digital communication)に分類されている。意匠権の国際登録制度であるハーグ協定に基づく出願について、WIPOの2026年発表は、2025年の公開意匠件数でHuaweiが1,200件を記録し、最多の出願人であると記載している。[8][9]

欧州特許庁(EPO)のPatent Index 2024によると、2024年にEPOへ提出された特許出願件数において、Huaweiは4,322件を記録し、出願人別ランキング第2位である。EPO Technology Dashboard 2025では、2025年のHuaweiの出願件数が前年比9.8%増加し、企業別ランキングで第2位であると示されている。[10][11]

日本の特許庁(JPO)が発行する「JPO Status Report 2026」によると、国外企業による2025年の特許登録件数ランキングにおいて、HUAWEI TECHNOLOGIES CO., LTD.は823件で第2位である。同表では、Huaweiの2024年実績は972件で第1位であったことが示されている。[12]

知的財産ライセンスプログラムの体系とロイヤルティ収益の実績

Huaweiが2025年11月11日に北京で開催した「第6回 Innovation and Intellectual Property Forum」に関する公式資料によると、HuaweiのChief Legal Officerは、2024年実績として特許ライセンス収益が約630百万米ドルであったと発表している。同発表では、過去数年間にHuaweiが支払った特許ロイヤルティ総額が、Huaweiが受領したロイヤルティ総額の約3倍に相当すると述べられている。[5]

過去の実績として、Huaweiの2020年2月の公式ニュースでは、2015年以降、同社が1.4十億米ドルを超える特許ライセンス料金を受領し、同期間に業界の同業他社が開発した特許技術を合法的に使用するために6.0十億米ドル以上を支払ったと記載されている。[13]

Huawei特許に基づきライセンス供与されているデバイスの普及状況について、2025年11月11日の公式発表は、2024年末時点で27億台を超える5GデバイスがHuaweiの特許の下でライセンス供与されていると記載している。Wi-Fi分野では、12億台を超える消費者向け電子デバイスがHuawei特許のライセンスを受けている。ビデオコーデック技術に関するHuawei特許を利用するマルチメディアデバイスは32億台を超えると記載されている。また、HuaweiのライセンシーにはFortune Global 500に含まれる企業48社が直接または間接的に含まれると記載されている。[5]

Huaweiは、モバイル通信、Wi-Fi、Cellular IoTなどの標準必須特許(SEP)について、公正、合理的、かつ非差別的(FRAND)な原則に基づいてライセンス供与する方針を公式に掲げている。2023年7月13日の公式発表では、4Gハンドセット向けのロイヤルティ上限は1台あたり1.5米ドル、5Gハンドセット向けのロイヤルティ上限は1台あたり2.5米ドルとされている。Wi-Fi 6規格に対応する消費者向けデバイスのロイヤルティレートは1台あたり0.5米ドルである。IoT製品向けのプログラムでは、IoT-Centricデバイスのレートは純販売価格の1%で上限0.75米ドル、IoT-Enhancedデバイスのレートは1台あたり0.3~1米ドルである。[14][15][16][17][18]

Huawei公式フォーラム資料によると、Huaweiは2024年6月に特許データベースシステム「Chaspark Patent」の無料公開を開始し、2025年11月11日のフォーラムにおいて、セマンティック検索やAIによ

る要約機能などの新機能を追加したアップデートを発表した。[5]

主要な特許クロスライセンス契約およびパテントプール参画の記録

Huawei公式IPRページによると、同社は過去20年間にICT業界の主要な特許保有者とクロスライセンス交渉を行い、欧州、米国、日本、韓国のグローバルICT企業との間で260件を超える特許ライセンス契約を締結している。[3]

2022年12月、HuaweiはOPPOとの間でグローバルな特許クロスライセンス契約を締結した。この契約は、5G規格の技術を含むセルラー通信の標準必須特許を対象としている。同じく2022年12月、HuaweiはNokiaとの間で特許ライセンス契約を延長することに合意した。[20][21]

2023年8月、HuaweiはEricssonとの間で長期的なグローバル特許クロスライセンス契約を締結した。公式リリースによると、この契約の対象範囲には、3G、4G、5Gセルラー技術に関する3GPP、ITU、IEEE、IETF規格等に必須となる特許が含まれる。また、この契約は両社のネットワークインフラストラクチャおよび消費者向けデバイスの販売をカバーし、双方が相手の特許化された標準化技術にグローバルにアクセスすることを認めるものである。[22]

2023年9月、HuaweiはXiaomiとの間でグローバルな特許クロスライセンス契約を締結した。この契約は、5Gを含む複数の通信技術を対象としている。2023年11月、HuaweiはSharpとの間で新しい長期的なグローバル特許クロスライセンス契約を締結した。公式発表によると、この契約は4Gおよび5G通信を含むセルラー標準必須特許を対象としている。[23][24]

2024年3月、HuaweiはAmazonとの間で複数年の特許クロスライセンス契約を締結した。この合意により、両社間で係争中であった訴訟が解決されたと公式ニュースに記載されている。同じく2024年3月、Huaweiはvivoとの間でグローバルな特許クロスライセンス契約を締結した。この契約は5Gを含むセルラー標準必須特許を対象としている。2024年4月、HuaweiはEDMIとの間でFRAND条件に基づく特許ライセンス契約を締結し、NB-IoT、LTE-M、LTE Cat. 1を含むCellular IoT標準必須特許のライセンスをEDMIに付与した。[25][26][27]

パテントプールへの参画について、2020年1月、HuaweiはHEVC/H.265ビデオコーデック標準の必須特許をHEVC Advanceパテントプールを通じてライセンサーとして利用可能にし、同プールのライセンサーとして関連特許へのアクセスを取得した。2022年7月、HuaweiはSisvel Wi-Fi 6 Patent Poolに創設メンバーとして参画し、Wi-Fi 6標準必須特許をライセンサーとして提供するとともに、同プールのライセンサーとしても参加している。[30][31]

技術ドメイン別の研究開発成果：Top Ten Inventions

Huawei公式IPRページによると、Huaweiは2015年以降、「Top Ten Inventions」アワードを定期的で開催している。2025年のTop Ten Inventionsには、コンピューティング、HarmonyOS、折りたたみ端末、光インターコネクト、SSD、RAN、運転支援、推論高速化、固定アクセス、カメラ技術などの発明が含まれている。[3]

第1位の「Scale-Up Ultra-Large-Scale SuperPoD Computing Platform」は、高速インターコネクトバスを利用して完全なピアツーピアアーキテクチャを構築するコンピューティングプラットフォーム技術

である。同技術は、ヘテロジニアス並列プロセッサ、CPU、メモリ、ストレージなどのSuperPoD内リソースを統合し、共有リソースプールとして構成する。Huawei公式説明では、このアーキテクチャにより、数百から数千のAIプロセッサを接続し、単一のコンピュータのように稼働させることが可能になるとされている。[3]

第2位の「HarmonyOS Full-Stack Architectural Innovation」は、すべてのシナリオ向けに設計された次世代インテリジェントオペレーティングシステムに関するフルスタックアーキテクチャである。構成要素として、Ark EngineおよびHarmonyOS Security Architectureが記載されている。Ark Engineはソフトウェア、ハードウェア、エコシステムの協調を支援し、HarmonyOS Security Architectureはシステムレベルの暗号化共有メカニズムにより、データがデバイスを離れた後もユーザーに細かな制御権を提供すると説明されている。[3]

第3位の「New Form Factors for Foldables」は、精密ヒンジ、フレキシブルスクリーン、熱放散、システムアーキテクチャの領域にわたる技術を含む。Huawei公式説明では、同技術が商用三つ折りスマートフォンおよび商用折りたたみ式PCに関係する技術として記載されている。[3]

第4位の「Short Reach Optical Interconnect」は、光チップ、光電気リンク、ネットワークシステムを組み合わせたインテリジェントコンピューティングクラスター向け光インターコネクト技術である。Huawei公式説明では、クラスターの信頼性を3倍に高め、カバレッジを12倍に拡大し、O&M効率を40%向上させると記載されている。[3]

第5位の「Next-Generation SSD with Ultra-High Capacity and Performance」は、高度なパッケージング技術、ハードウェア・ソフトウェア・チップの協調、アルゴリズムを活用したストレージ技術である。同技術の説明では、ストレージシステムの容量密度を4倍にし、数百テラバイトのデータに対して時間単位での復旧を可能にすると記載されている。[3]

第6位の「GigaGreen RAN」は、他の市場製品と比較してエネルギー消費を30%削減し、統合度を30%高めたワイヤレス基地局技術として説明されている。同技術には、マルチバンド共有アーキテクチャ、広帯域パワーアンプ、ネットワーク体験改善、0 Bit, 0 Watt機能、デジタルとアナログの相殺アーキテクチャが含まれる。[3]

第7位の「A New Paradigm for Assisted Driving Based on Real-Time Environmental Awareness」は、標準的なマップデータとリアルタイムの車両センシングデータを組み合わせた運転支援技術である。Huawei公式説明では、道路構造を動的に再構築し、障害物をリアルタイムで検出することにより、高速道路および都市部での車両走行を支援すると記載されている。[3]

第8位には「Ascend-aware Inference Acceleration via Mathematical Innovation」が選出されている。第9位には「Fixed 5G-Advanced – 5G PON Technology」が選出されている。第10位の「Ultra Chroma Camera」は、マルチスペクトルアレイアーキテクチャ、環境スペクトルキャプチャ、信号処理チャンネル、カラー復元アルゴリズムを組み合わせた色処理技術として記載されている。[3]

オープンソースソフトウェアおよびハードウェアプロジェクトへの貢献記録

Huawei公式の「Advancing Innovation with Openness」によると、Huaweiは複数のオープンソースプロジェクトを財団へ寄贈し、各コミュニティにおいてTSC、PMC、PTL、Maintainer、Committer等のリーダーシップ要職を280件以上保有している。[5]

オペレーティングシステムおよびデジタルインフラの領域では、Huaweiはデジタルインフラ向けOSであるopenEulerをオープンソース化し、OpenAtom Foundationへ寄贈した。同資料は、2024年のopenEulerのインストール数が1,000万件を超えたと記載している。OpenHarmonyについては、デバイス用OSとしてオープンソース化され、OpenAtom Foundationへ寄贈された。同資料は、2024年にOpenHarmonyのソースコードが1,000万行増加し、8,100人以上のコミュニティコントリビューターから提出を受けたと記載している。また、OniroはHuaweiとEclipse Foundationとの協働により初期化されたOpenHarmonyの実装として記載されている。[5]

AI、機械学習、コンピューティング領域では、HuaweiはopenPangu、Cangjie、CANN、MindSpore、ModelBox、MindQuantum、Vegaを関与プロジェクトとして記載している。クラウドネイティブ、コンテナ化、仮想化領域では、KubeEdge、Karmada、Volcano、Kurator、Kappital、open-eBackup、Zun、Kata Containersが記載されている。このうちKubeEdgeはCNCFへ寄贈されたエッジコンピューティングプロジェクトであり、Volcanoはクラウドネイティブバッチコンピューティングプロジェクトとして記載されている。[5]

データベース、ストレージ、ビッグデータ領域では、openGemini、openGauss、openLookeng、CarbonData、OpenSDSが記載されている。openGeminiは時系列データベースとしてオープンソース化され、CNCFに寄贈された。CarbonDataはApacheインキュベーターに参画し、Apacheの最上位プロジェクトとなったと記載されている。[5]

マイクロサービス、フレームワーク、コンパイラ領域では、ServiceComb、openInula、openHiTLS、OpenArkCompilerが記載されている。ネットワークング、エッジ、オーケストレーション領域では、EdgeGallery、Akraino、DragonFlow、Tricircle、OPEN-O、OPNFV、ONOSが記載されている。セキュリティ、検証、シミュレーション領域では、Karbor、Caliper Hyperledger、SMARTSが記載されている。[5]

ハードウェアおよびハードウェア隣接領域では、openUBMC、ERP、Cyborg、STORが記載されている。また、HuaweiはRISC-V Foundationのプラチナまたはゴールドメンバー、およびOpenHW Groupのメンバーとして記載されている。[5]

ソースコードへの貢献度に関する外部実績として、同資料は、Linux Kernelの開発においてHuaweiがカーネルバージョン5.10のコード貢献度で第1位、バージョン5.08のコード貢献度で第2位を記録し、バージョン4.20以降で継続して貢献度トップ10組織に入っていると記載している。また、Kubernetesへのコード貢献度およびKubernetesプロジェクトのメンテナー枠の獲得数において、Huaweiはアジア地域で第1位と記載されている。[5]

第三者機関データに基づく市場シェア実績

Huawei公式ニュースが引用するABI Researchの2023年グローバル基地局アンテナ市場レポート「Passive Cellular Antenna Competitive Analysis」によると、Huaweiは基地局アンテナベンダー評価において「Overall」「Innovation」「Implementation」の3つの評価次元で第1位とされている。同ニュースは、同レポートに基づき、Huaweiのグローバル市場シェアが38.93%であり、9年連続で市場シェア第1位であると記載している。同ニュースは2024年12月に公表された。[32]

Huawei公式ニュースが引用するDell'Oro Groupのデータによると、Huaweiは5Gコアネットワーク分野において、収益と出荷数の両方の指標で第1位とされている。同ニュースは、Huaweiが42%を超

える市場シェアを獲得していると記載している。同ニュースには、HuaweiのSVCソリューションが世界中の420以上のネットワークで稼働し、18億人のVoLTEユーザーおよび2億人の2G/3Gユーザーにサービスを提供していると記載されている。[33]

付属データ表

1. IRイベント表(財務実績抜粋)

項目名	数値	単位	対象期間	区分	出典表記名
売上高(Revenue)	880,941	100万人民元	2025年	実績	2025 Annual Report
営業利益(Operating profit)	96,937	100万人民元	2025年	実績	2025 Annual Report
営業利益率(Operating margin)	11.0	%	2025年	実績	2025 Annual Report
純利益(Net profit)	68,036	100万人民元	2025年	実績	2025 Annual Report
営業活動によるキャッシュフロー(Cash flow from operating activities)	127,384	100万人民元	2025年	実績	2025 Annual Report
研究開発費(R&D spending)	192.3	10億人民元	2025年	実績	2025 Annual Report
総資産(Total assets)	1,334,930	100万人民元	2025年末	実績	2025 Annual Report
資本(Equity)	600,120	100万人民元	2025年末	実績	2025 Annual Report

2. 市場シェア表

品目ラベル	数値	単位	対象期間	区分	出典表記名	備考
Base station	38.93	%	2023年	実績	Huawei公式ニュース	9年連続第1位

品目ラベル	数値	単位	対象期間	区分	出典表記名	備考
antenna					(ABI Research 2023年レポート引用)	
5G core networks	>42	%	2025年時点のHuawei公式ニュース掲載値	実績	Huawei公式ニュース(Dell'Oro Groupデータ引用)	収益および出荷数第1位

3. 知財対応表(主要ライセンス実績)

相手方または対象プール	対象技術領域等の概要	ステータス	発表年月
OPPO	5Gを含むセルラー標準必須特許(クロスライセンス)	完了	2022年12月
Nokia	特許ライセンス契約の延長	完了	2022年12月
Ericsson	3G、4G、5Gセルラー技術に関する3GPP等の長期グローバル特許クロスライセンス	完了	2023年8月
Xiaomi	5Gを含む複数の通信技術(クロスライセンス)	完了	2023年9月
Sharp	4Gおよび5Gを含むセルラー標準必須特許(クロスライセンス)	完了	2023年11月
Amazon	係争解決を伴う複数年の特許クロスライセンス	完了	2024年3月
vivo	5Gを含むセルラー標準必須特許(クロスライセンス)	完了	2024年3月

相手方または対象プール	対象技術領域等の概要	ステータス	発表年月
EDMI	NB-IoT、LTE-M、LTE Cat. 1を含むCellular IoT標準必須特許(ライセンス供与)	完了	2024年4月
HEVC Advance	HEVC/H.265の必須特許(パテントプール参画、ライセンサーおよびライセンシー)	稼働	2020年1月
Sisvel Wi-Fi 6	Wi-Fi 6標準必須特許(創設メンバーとしてのパテントプール参画)	稼働	2022年7月

4. 組織・拠点表(主要研究開発インフラ)

拠点名	所在国・地域	役割・機能	稼働状況
Huawei Lianqiu Lake R&D Center	中国(上海市青浦区)	サミット等イベント会場、各種R&D機能	稼働(2025年9月確認)
HUAWEI Health Lab (Dongguan)	中国(東莞)	フィットネス・健康製品の研究、標準化、テスト、認証	稼働
HUAWEI Health Lab (Xi'an)	中国(西安)	ソリューションテスト、データ収集、検証	稼働
HUAWEI Health Lab (Helsinki)	フィンランド(ヘルシンキ)	フィットネス・健康領域のR&D、アルゴリズム開発	稼働

引用文献

- 2025 Annual Report - Huawei
<https://www.huawei.com/en/annual-report/2025>
- 2025 Annual Report PDF - Huawei
<https://www-file.huawei.com/dam/asset/view/dec782afd1544f558c32fc76e3141334.pdf>
- Innovation and Intellectual Property - Huawei
<https://www.huawei.com/en/ipr>
- Sustainability Addendum to Huawei 2025 Annual Report

<https://www-file.huawei.com/dam/asset/view/b031a6b2d5bd420d982e253b00005899.pdf>

5. Advancing Innovation with Openness - Huawei
<https://www.huawei.com/en/news/2025/11/2025ipr-advancing-innovation>
6. Huawei Lianqiu Lake R&D Center
<https://www-file.huawei.com/dam/asset/view/7eba400f84e84ac7bde0399a47fde0c5.pdf>
7. HUAWEI Consumer Business Sustainability Progress Report 2024–2025
<https://www-file.huawei.com/dam/asset/view/046f110709aa4a9e966cb30960eb4d79.pdf>
8. PCT Yearly Review 2025 - WIPO
<https://www.wipo.int/edocs/pubdocs/en/wipo-pub-901-2025-en-patent-cooperation-treaty-yearly-review-2025.pdf>
9. International Patent Applications Rose in 2025, with Digital Communication and Semiconductor Technologies Showing Strong Growth - WIPO
<https://www.wipo.int/en/web/ip-statistics/w/news/2026/international-patent-applications-rose-in-2025-with-digital-communication-and-semiconductor-technologies-showing-strong-growth>
10. Top 50 | Patent Index 2024 - EPO
<https://www.epo.org/en/about-us/statistics/patent-index-2024/statistics-and-indicators/applicants/top-50>
11. EPO Technology Dashboard 2025
<https://www.epo.org/en/about-us/statistics/technology-dashboard-2025>
12. JPO Status Report 2026 - Japan Patent Office
<https://www.jpo.go.jp/resources/report/statusreport/2026/index.html>
13. Huawei Sues Verizon for Patent Infringement - Huawei
<https://www.huawei.com/en/news/2020/2/huawei-sues-verizon-for-patent-infringement>
14. Huawei announces royalty rates for its patent license programs - Huawei
<https://www.huawei.com/en/news/2023/7/ipr-innovation-horizon>
15. Mobile Handset Licensing Program - Huawei
<https://www.huawei.com/en/ipr/license/mobile-handset>
16. Wi-Fi Licensing Program - Huawei
<https://www.huawei.com/en/ipr/license/wi-fi>
17. Cellular Internet-of-Things Licensing Program - Huawei
<https://www.huawei.com/en/ipr/license/cellular-iot>
18. The Latest - Huawei Innovation and Intellectual Property

<https://www.huawei.com/en/ipr/the-latest>

19. Huawei and OPPO Sign Global Patent Cross-licensing Agreement
<https://www.huawei.com/en/news/2022/12/ipr-licensing-huawei-oppo>
20. Huawei and Nokia Extend Patent License Agreement
<https://www.huawei.com/en/news/2022/12/license-agreement-ipr>
21. Huawei and Ericsson Sign Long-Term Patent Cross-Licensing Agreement
<https://www.huawei.com/en/news/2023/8/huawei-ericsson-cross-licensing>
22. Huawei and Xiaomi Reach Global Patent Cross-Licensing Agreement
<https://www.huawei.com/en/news/2023/9/huaweixiaomi-patent-crosslicensing>
23. Huawei and Sharp Sign Long-Term Global Patent Cross-licensing Agreement
<https://www.huawei.com/en/news/2023/11/huaweisharp-agreement>
24. Amazon and Huawei sign global patent agreement
<https://www.huawei.com/en/news/2024/3/huawei-amazon-global-patent-agreement>
25. Huawei and vivo Sign Global Patent Cross-Licensing Agreement
<https://www.huawei.com/en/news/2024/3/huawei-vivo-global-patent-crosslicensing-agreement>
26. Huawei and EDMI reach global IoT licensing agreement
<https://www.huawei.com/en/news/2024/4/huawei-edmi-global-licensing-agreement>
27. Huawei Joins HEVC Advance
<https://www.huawei.com/en/news/2020/1/huawei-joins-hevc-advance>
28. Huawei Joins Sisvel Wi-Fi 6 Patent Pool as a Founding Member
<https://www.huawei.com/en/news/2022/7/ipr-wifi6-sisvel-founding-member>
29. Huawei Maintains the Top Position in the Global Passive Antenna Market for the Ninth Consecutive Year
<https://www.huawei.com/en/news/2024/12/antenna-overall-leader>
30. Huawei Named a Leader in the Gartner Magic Quadrant for 5G Core Network Infrastructure Solutions
<https://www.huawei.com/en/news/2025/10/5gc-mqleader>